

2024年度（令和6年度）

奈良県食と農の概要



ブランド認証制度「奈良県プレミアムセレクト」
大きさや形など外観の基準だけでなく、品質面でも優れた特徴を持つ「とびきり」の産品と、その産品を生産・販売する団体を県が設定した基準に基づいて県が認証する制度です。



なら食と農の魅力創造国際大学校（NAFIC）
アグリマネジメント学科、フードクリエイティブ学科の2学科制で、実学教育により食と農の担い手を育成しています。

奈良県食農部

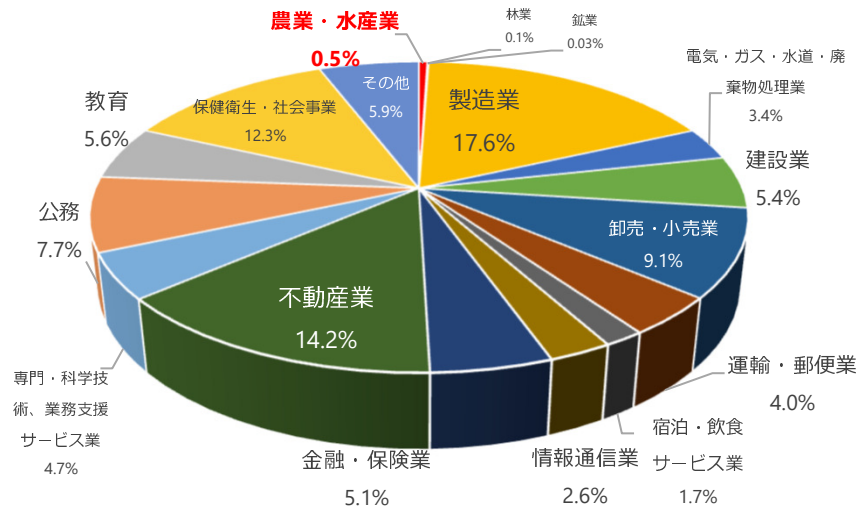
2024年4月1日更新

1 奈良県農業の位置

奈良県農業・水産業は、全産業規模からは小さいものの、農山村を中心として従事する者の割合が高い

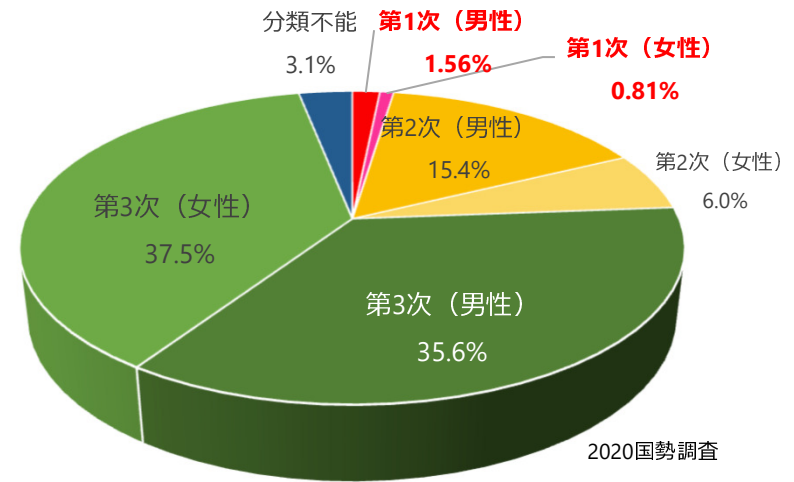
- 県内総生産に占める農業・水産業は、0.5%（全国は1.0%）
- 1次産業に従事する割合は、2.4%（全国は3.4%）

県内総生産（生産側、名目）2020



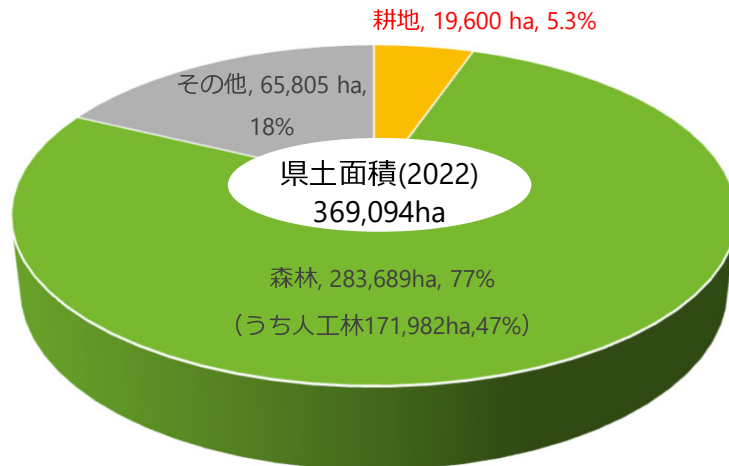
県統計分析課 「令和2年度奈良県民経済計算」

産業別就業者構成比（奈良県）2020



2020国勢調査

- 本県は、森林が多く、耕地面積は、県土の5.3%



農業就業者が占める割合が多い市町村上位10位（2020国勢調査）

順位	市町村名	産業従事者総数(人)	うち農業(人)	農業が占める割合	地域
1位	山添村	1,698	269	15.8%	大和高原
2位	五條市	12,528	1,864	14.9%	五條吉野
3位	曽爾村	630	93	14.8%	大和高原
4位	御杖村	644	86	13.4%	大和高原
5位	明日香村	2,389	229	9.6%	大和平野
6位	下市町	2,375	221	9.3%	五條吉野
7位	宇陀市	12,496	823	6.6%	大和高原
8位	平群町	7,633	445	5.8%	大和平野
9位	御所市	9,964	419	4.2%	大和平野
10位	野迫川村	171	7	4.1%	五條吉野
	奈良県	573,513	12,702	2.2%	

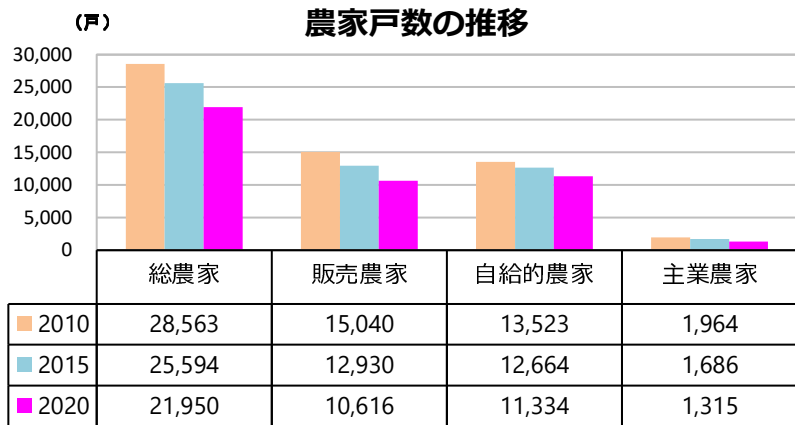
2 担 手

総農家数は大きく減少、若い農業者は全体の8%

現状と課題

- ・ 総農家戸数は減少しており、販売農家数もこの10年間で約4千戸減少している。
- ・ 意欲ある担い手の育成や新規就農者（企業も含む）の確実な定着をすすめ、農業の担い手確保を図る必要がある。

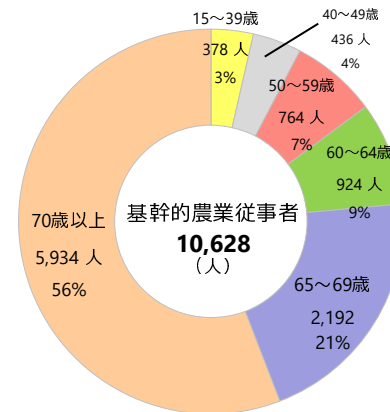
■ 総農家数は10年間で約6千戸減少



(農林業センサス)

■ 若い農業従事者（49歳以下）は8%

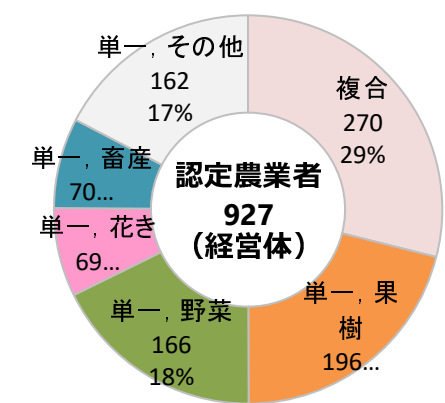
基幹的農業従事者年齢別構成



(2020農林業センサス)

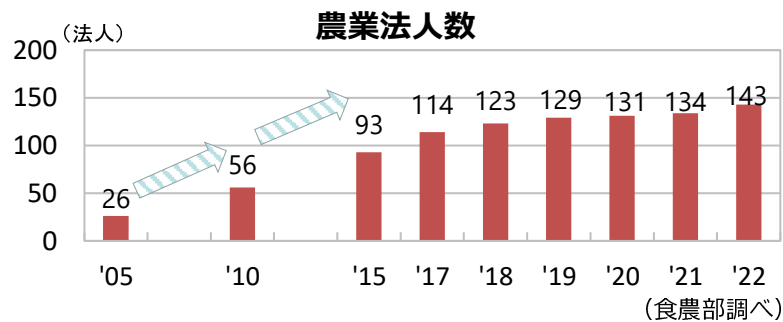
■ 認定農業者は927経営体（全国46位）

認定農業者の営農類型別内訳



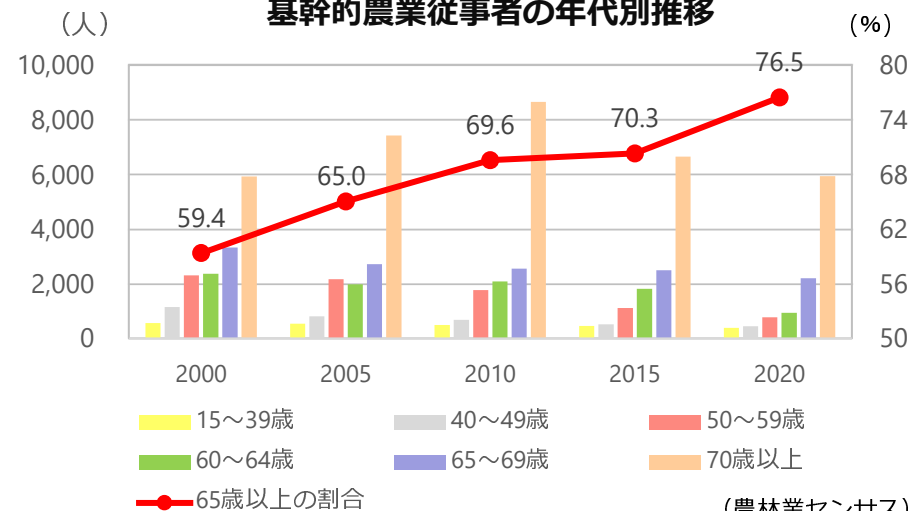
(農業経営基盤強化促進法に係る担い手の実態に関する調査2023.3)

■ 農業法人数は、143件で、着実に増加している



(食農部調べ)

基幹的農業従事者の年代別推移



(農林業センサス)

用語解説

- **販売農家** | 経営耕地面積30a以上または農産物販売金額が年間50万円以上の農家
- **主業農家** | 農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、1年間に60日以上農業に従事している65歳未満の者がいる農家。2020は主業経営体
- **自給的農家** | 経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家
- **基幹的農業従事者** | 自営農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、ふだんの主な状態が「主に仕事（農業）」である者
- **認定農業者** | 自ら農業経営改善計画を作成・申請し、基準に適合する農業者として、市町村または県・国から認定を受けた者

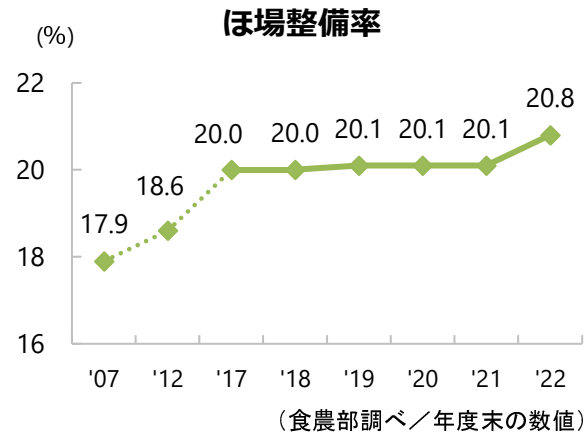
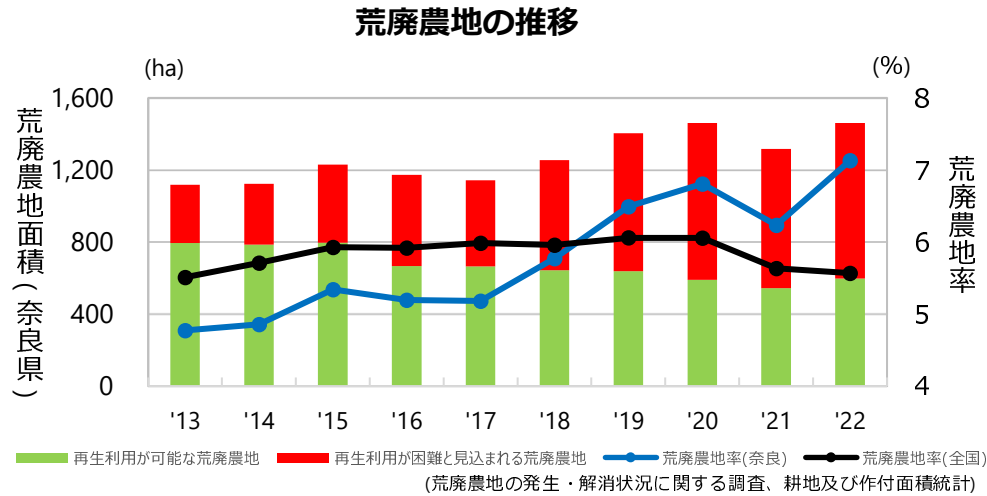
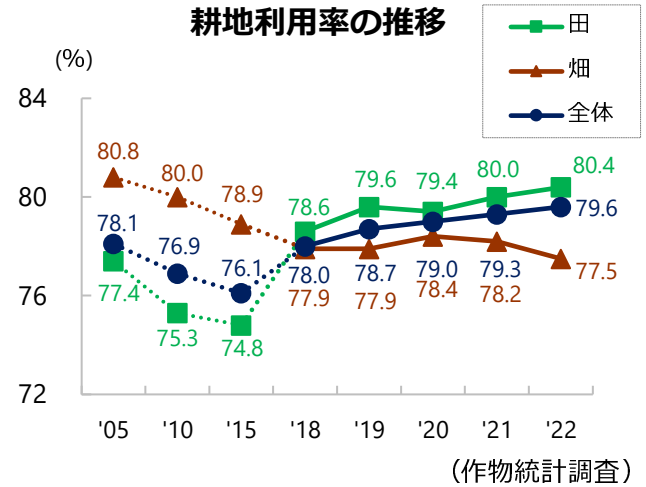
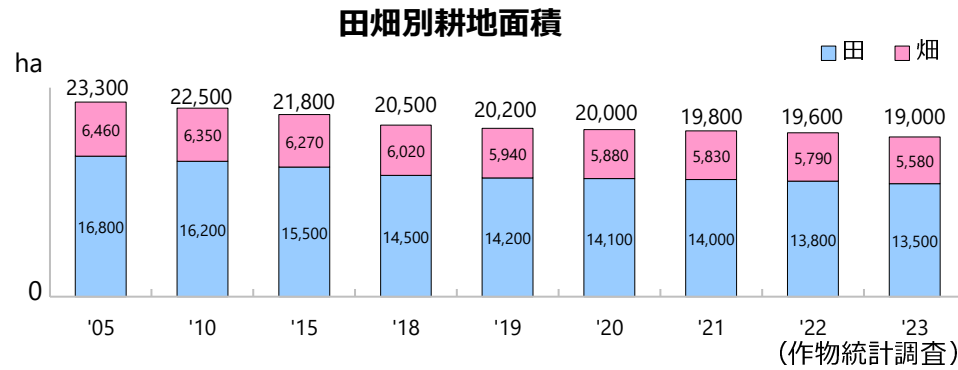
3 農 地

田を中心とした営農展開の中、荒廃農地面積は増加傾向

現状と課題

- ・本県の耕地面積は、県土の5.1%にあたる19,000haで、ここ5年間で、転用や耕作放棄等が原因で田1,000ha、畑440haが減少している。
- ・本県の荒廃農地面積は徐々に増加しており、荒廃農地率も上昇傾向となっている。
- ・地域の振興と農業とのバランスを図りながら、経済活性化につながる農地マネジメントに取り組み、農地の有効活用を推進する。

■ 5年間で田1,000ha、畑440haが減少



注：1 「荒廃農地面積 / (耕地面積 + 荒廃農地面積)」により荒廃農地率を算定。
 2 「荒廃農地」とは、「現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地」。
 3 「再生利用が可能な荒廃農地」とは、「抜根、整地、区画整理、客土等により再生することにより、通常の農作業による耕作が可能となると見込まれる荒廃農地」。
 4 「再生利用が困難と見込まれる荒廃農地」とは、「森林の様相を呈しているなど農地に復元するための物理的な条件整備が著しく困難なものの、又は周囲の状況から見て、その土地を農地として復元しても継続して利用することができないと見込まれるものに相当する荒廃農地」。

ほ場整備率（ほ場整備事業によって区画整理された水田面積の割合）は、10年間で2.2%の伸びにとどまっている

4 農産物

農業産出額は少ないものの、柿・小ぎくなど全国で上位の品目も

現状と課題

- ・農業産出額は、2022年は390億円で、全国45位。ここ数年は、400億円前後で推移している。
- ・上位5品目は、米、柿、いちご、生乳、鶏卵。なかでも柿は全国第2位の生産を誇っている。
- ・農業産出額の向上をめざして、奈良県豊かな食と農の振興計画に基づき、戦略的な販売の推進と生産振興に取り組んでいく。

総産出額：390億円（2022年）

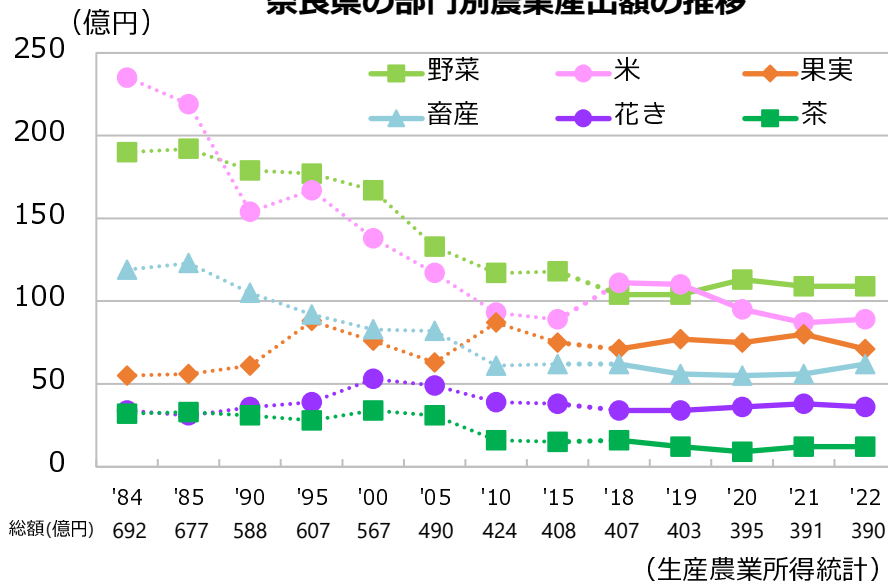
奈良県	野菜 109億円 (27.9%)				米 89億円 (22.8%)	果実 71億円 (18.2%)		畜産 62億円 (15.9%)				花き 36億円 (9.2%)		茶 12億円 (3.1%)	その他 11億円
	いちご 36(億円)	ほうれんそう 13	なす 10	その他 50		柿 53	その他 18	生乳 29	肉用牛 13	鶏卵 14	その他 6	きく 12	その他 24		

総産出額：90,015億円（2022年）

全国	野菜 22,298億円 (24.8%)		米 13,946億円 (15.5%)		果実 9,232億円 (10.3%)		畜産 34,678億円 (38.5%)				花き 3,493億円 (3.9%)	その他 5,598億円

茶770億円 (0.9%)

奈良県の部門別農業産出額の推移



全国から見た本県農畜水産物の地位

	奈良県	全国	構成率	順位	備考
農業産出額 (億円)	390	90,015	0.4%	45	2022年
水稻収穫量 (t)	42,400	6,610,000	0.6%	41	2023年
いちご収穫量 (t)	2,190	161,100	1.4%	18	2022年
ほうれんそう収穫量 (t)	3,190	209,800	1.5%	18	2022年
なす収穫量 (t)	4,710	294,600	1.6%	18	2022年
柿収穫量 (t)	29,500	216,100	13.7%	2	2022年
うめ収穫量 (t)	798	96,600	0.8%	15	2022年
生乳生産量 (t)	23,465	7,617,473	0.3%	34	2022年
切り花小ぎく出荷量 (千本)	45,100	417,000	10.8%	2	2019年
荒茶生産量 (t)	1,642	75,579	2.2%	6	2021年
内水面漁業・養殖業生産額 (億円)	9	1,100	0.8%	-	2020年

- 全国1位の品目**
- ハウス柿 (産地:五條市)
 - ダリア球根 (産地:宇陀市・山添村)
 - 二輪ぎく (産地:葛城市)
 - 小ぎく(夏秋期) (産地:平群町)

5 地域別 主な生産物

【大和平野北西部地域】
平群町
県営造成農地で、山麓の気候を活かした
花き産地を形成（小ギク・バラ）
〔小ギク生産量：全国2位〕

【大和平野中部地域】
大和高田市・橿原市・桜井市
田原本町・広陵町他
水田を活用した、軟弱野菜や果菜類が盛ん
（コマツナ・ネギ・イチゴ・ナス）

【大和平野南西部地域】
葛城市・御所市
山麓部では、酪農や柿、
輪ギクの花き産地を形成、
平坦部では軟弱野菜の生産が盛ん
（輪ギク・二輪ギク・酪農・ネギ・柿）
〔二輪ギク生産量：全国1位〕

【五條吉野北西部地域】
五條市、下市町
全国有数の果樹産地を形成（柿・ウメ）
薬用作物（トウキ、シャクヤクなど）
〔柿生産量：全国2位〕

【五條吉野南部地域】
河川漁業（アユ・アマゴ）
養殖業（アマゴ）

【大和平野北部地域】
奈良市・天理市・大和郡山市
水田での野菜を中心とした施設園芸が盛ん
（イチゴ、トマト）

【大和平野東部地域】
【大和高原北部地域】
奈良市東部・山添村
国営造成農地を中心に大規模な茶産地
を形成（茶）
〔荒茶生産量：全国6位〕

【大和高原南部地域】
宇陀市・曽爾村・御杖村
冷涼な気候を活かした農業を展開。高原野菜や
畜産が盛ん
（ホウレンソウ・ミズナ・肉用牛・酪農）

※大和野菜（25品目）
大和まな、千筋みずな、宇陀金ごぼう、大和いも、
結崎ネブカ、黄金まくわ、大和丸なす、下北春まな、
大和寒熟ほうれん草、ひもとうがらし、軟白ずいき、
祝だいごん、小しょうが、花みょうが、大和きくな、
紫とうがらし、片平あかね、筒井れんこん、大和三
尺きゅうり、味間いも、黒滝白きゅうり、大和ふと
ねぎ、香りごぼう、半白きゅうり、朝採り野菜

大和まな 筒井れんこん 大和いも

凡 例				
●リーディング品目				
イチゴ	カキ	茶		
キク	大和畜産ブランド 大和牛・ヤマトポーク 大和肉鶏・大和なでしこ卵			
金魚				
●チャレンジ品目				
大和野菜	大和まな	大和いも		
結崎ネブカ	味間いも			
サクランボ	切り花タリア	切り枝花木		
イチジク	アユ	アマゴ		
●その他主要品目				
軟弱野菜 ホウレンソウ・ミズナ コマツナ・ネギ	ナス	生乳		
	ネギ	トマト		
キュウリ	ブドウ	ナシ		
ウメ	バラ	花き苗		
ハクサイ	スイカ			

6 食の振興

奈良の食材提供の機会が増え、奈良のうまい飲食店が増加傾向

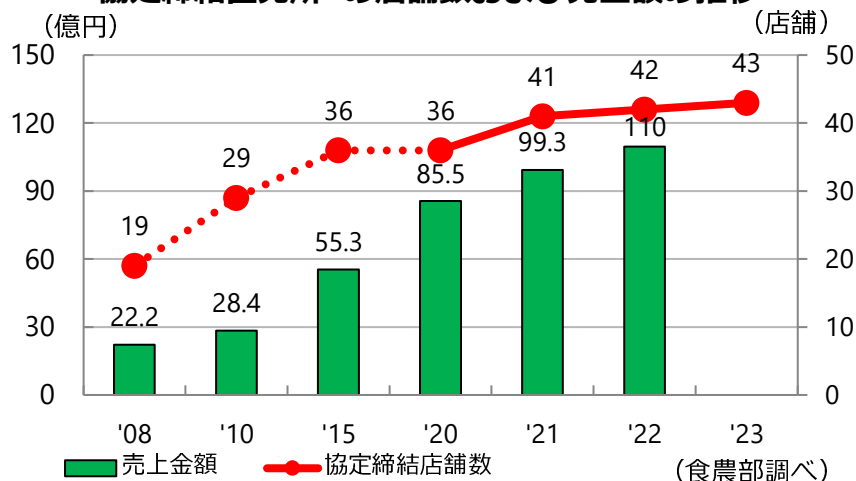
現状と課題

- ・新鮮な農産物や加工品など県産食材が手軽に買える直売所が増加している。
- ・奈良の飲食店がテレビや雑誌などのマスコミに多く取り上げられるようになると共に、食事を楽しめる飲食店が増加している。

■直売所の売上規模は、100億円市場に拡大。

■美味しい食をゆっくりと楽しむ飲食店として宿泊機能付きレストラン「オーベルジュ」の登録数が増加。

協定締結直売所※の店舗数および売上額の推移



県と協働協定を締結した直売所のネットワーク「地の味土の香」ロゴマーク



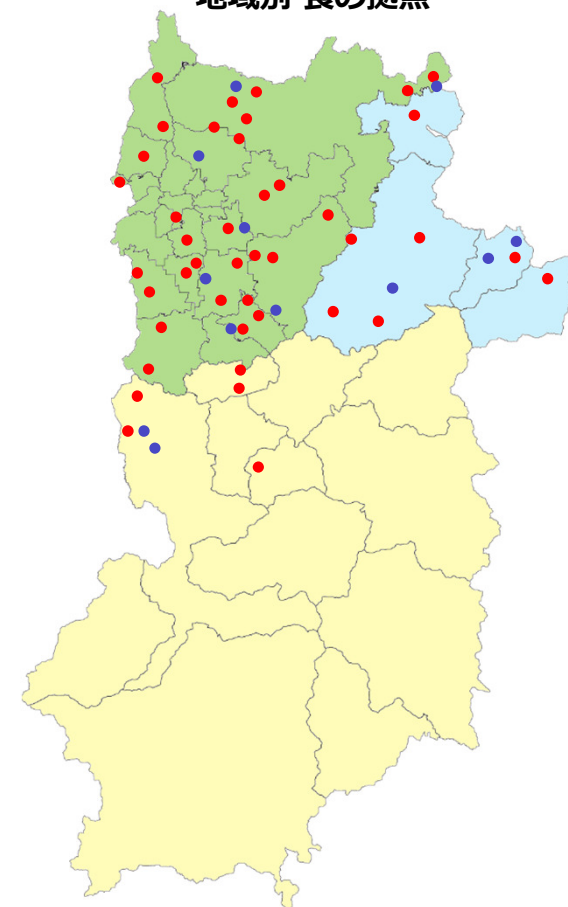
※県が、県と協働して農産物直売所のブランド化や直売所を拠点とした地域活性化に取り組む直売所と協働協定を締結した直売所。

全国から見た本県食関係の地位

項目	奈良県	全国	順位	備考
直売所 (事業体数)	220	22,680	36	2021年
年間販売金額 (億円)	122	10,464	39	2021年
1事業体売上 (万円)	5,680	4,613	20	2021年
協定締結直売所※店舗数	42	-	-	2022年
売上金額 (億円)	110	-	-	2022年
オーベルジュ登録数	14	-	-	2023年
飲食店数	3,764	499,193	43	2021年
10万人あたりの飲食店数	29	40	45	2021年
1万世帯数あたりの飲食店数	63	83	45	2021年

(農林統計、経済センサス、県調べ)

地域別 食の拠点



● 協定締結直売所 (43店舗)

● オーベルジュ登録店 (14店舗)